

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191400134		
法人名	医療法人 鴻仁会		
事業所名	認知症対応型共同対応型生活介護 グループホーム 光風園		
所在地	北海道函館市宮前町11番8号		
自己評価作成日	平成28年1月14日	評価結果市町村受理日	平成28年3月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	1/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosvoCd=0191400134-0
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	平成28年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> 地域の行事へ参加したり、来て頂いたり、入居者が笑顔で生活できるよう、理念に基づいた環境作り心がけています。 グループ内で協力・会議などでの情報交換・勉強会などを行い、介護技術や質の向上に努めています。また資格取得の支援もあり、職員もスキルアップに力を入れる環境が整っています。 ホールからは全ての居室が見渡せる環境にあり、居室から出てこられた際にはすぐにスタッフや他入居者の方々の顔が見え、安心して過ごせるようになっています。また、ホール内には、機能訓練用の平行棒や滑車運動ができる設備があり、いつでも好きな時間に運動が出来るき、筋力の維持に努めています。 家事等できる事を行っていただき自立支援に努め、その人らしい生活ができるよう支援しています。 法人が病院である為、24時間安心して過ごせる環境が整っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営母体が医療法人であり、近隣各所に福祉施設を持つため状況により対応してくれています。建物は3階建て、1階が2ユニットのグループホーム、2階が小規模多機能ホーム、3階が共生型ハウスとして運営しています。理事長が色々な役職を兼ねているため福祉に関する情報が早く、その度に研修会や勉強会を開催し、職員間のコミュニケーションが大変良い状態になっています。職員の育成にも理解を示し働きやすい環境を整えています。近所に菜園を持ち野菜づくりを楽しんだり、たくさんのボランティア訪問があり、町内会のお祭りに参加したり事業所の行事に町内の方が来所したりと地域との交流を深めています。また、月に1度の外出や、季節ごとの行事など入居者が心地よく過ごせるように配慮しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との連携というも光風園の理念に盛り込み職員間で共有し地域密着型施設として実践につなげている。	理念について職員間で話し合い、またそれに基づき個人で年間目標をたてるなど、常に意識付けをしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会のクリーン作戦や夜間の防犯パトロールに参加している。また、お祭りに参加し光風園の行事にも地域住民の方に参加して頂いている	町内会のクリーン作戦や夜間の防犯パトロールに参加したり、町内会や事業所の行事に相互間で参加し、またボランティアの訪問もあり地域との連携は図られています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で地域の方々に参加して頂いたり、行事や避難訓練に参加して頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を行い地域の方や有識者からの意見を頂き、利用者のサービスにつなげる様になっている。	定期的開催し、法人の理事長、包括支援センター、民生委員、町内会など多数の出席があり、そこでの話し合いをサービス向上に繋げるようにしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者を招致したり、議事録を送付したりし、連絡を密に行っている。又、サービスや保険関係で不明な点は市の担当者に直接聞き指示を仰いでいる。	法人の理事長が、市の依頼で講演したり、職員が市主催の研修会、勉強会に参加したり、ケアサービスなどで不明な点は指示を仰ぐなど連携を深めています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は研修や勉強会に積極的に参加し身体拘束にならない為のケアの方法を学んでいる。又、身体拘束防止委員会を設立し、話し合っている。	拘束防止委員会を月に一度開催し研修を行っています。また、外部虐待の事例をビデオを見ながら研修したり、独自のマニュアルも整備し拘束をしないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会で学ぶ機会を作り、防止についてのマニュアルを作成し職員に周知している。御家族にも協力を仰ぎケアについてのアンケートを郵送して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象となる方がいない。外部研修等がある際は、参加し勉強している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて、丁寧な説明を心掛け、利用者と御家族の不安や疑問を引き出すようにしている。また、契約後も常に相談を行い安心して暮らせるよう配慮している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に意見箱を設置している。また日々の会話の中から、意見・要望を拾い上げるようにしている。運営推進会議内や会議にて話しあったりしている。またアンケートなども定期的におこなっている。	意見箱を設置したり、運営推進会議での話し合いや、年2回家族にアンケート調査を行いその意見・要望を運営に活かしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度、会議を行い、3か月に1回の懇話会を開催し職員が自由に意見や提案を表明する機会を設け反映させている。理事長・統括課長が必ず参加し職員から直接意見を聞ける様になっている。	月に1度の会議や、理事長参加の懇話会で自由に意見を述べる場を設けたり、年度初めに職員の個人目標を立てています。年2回個人面談を行い職員の意見を反映させるように努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員には個々に入居者担当や委員会になってもらい、責任をもって仕事に従事している。又、法人としてもスキルアップ制度として喀痰吸引・社会福祉主事・実践者研修等の推進をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1か月に1度法人全体での勉強会、グループホームでの勉強会を行っている。勤務者以外、全員参加している。又、働きながらお互いの意見を交換をしたり指導したり専門性と人間性を深めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内、他施設で行う勉強会に参加し交流を深めサービスの質の向上に努めている。又、各委員会も法人内の施設合同で行い意見交換している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約に至るまでに見学等を通じて情報収集し環境変化によるダメージを最小限にするようにしている。又、アセスメント・モニタリングを行い不安や要望に俊敏に対応できるように心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約に至るまでに見学や相談等を通じてその間に家族の思いを傾聴する機会を持っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族と計画作成担当者が情報の共有を密に図りアセスメント等で把握しそれに基づき実践している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が主体となれるよう、家事・手伝いの場を増やし一緒に行っている。また食事と一緒にいったりと関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連絡を密に行い近状を伝えたり、家族様からの情報を頂いたりしている。また誕生会や、行事などにも参加して頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様や友人の面会時には、落ち着いて話ができる様に配慮している。	面会時には落ち着いて話ができる様に配慮したり、昔住んでいた地域にドライブに出かけるなど関係が途切れないように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事やレク等にお誘いし日頃から関係が円滑になるように支援している。又、お茶やおやつ時には、職員が間に入り会話の橋渡しをしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も関係性を大切にし、相談を受けたり、本人・家族様のフォローを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	馴染みの家具等を使用して頂き今まで本人が暮らしていた環境に近づける様にしている。意思表示が困難な方には、家族からの情報や生活歴や性格から模索し本人主体となれる関わりをもてる様にしている。	パーソン・センタード・ケアを主体に勉強会を開き、日々の関わりの中から希望や意向を把握し、本人主体のケアになるように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の担当ケアマネや本人・家族様と話しをして情報を出来る限り引き出すようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録をこまめにつけ一日の過ごし方の分析を行っている。体操・運動などを毎日行い、ADLの現状維持に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議や、モニタリング・アセスメント時に今後の課題やケアのあり方についての話し合いをしている。	3ヶ月に1度介護計画を立て、本人と家族・担当者を交え話し合い、モニタリング・アセスメント時にケアについて会議を開き介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を毎日記録し情報を共有している。モニタリングの際に介護記録を参照し、見直しに生かしている。また必要時には、すぐに介護計画の見直し変更を行い対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様との話を大事にし、本人・家族様が安心してらせるよう、またニーズに答えられるよう配慮し支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会で実施している草取りやゴミ拾い、お祭りなどに参加し地域との交流を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は、本人とご家族様の希望を考慮し決定している。また常に、医療機関との連携を密に行っている。	本人と家族の希望でかかりつけ医を決定しています。また訪問看護があり健康管理もされており、適切な医療を受けられるよう支援しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師とは、24時間連絡が取れる体制が整っている。また看護師の健康管理指導時に相談をしたり、アドバイスを頂いたりして		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関とは、常に情報の交換を行っている。入院の際は病院との連携を図り早期に退院できるように話し合いを行っている。又、入院が発生した場合、既往歴や薬剤情報がはいたフェースシートを病院に提出している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方は事前に本人・ご家族の意向を聞き対応している。又、協力医院とも情報の共有を密に行い実施できる体制は整っている。	終末期については事前に本人・家族と話し合い、また看取りの指針を作成し、協力医院とも情報を共有し支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	常に協力医療機関との連携を密に行っており、急変時、事故時は医師・看護師の指示が24時間取れる体制が整っている。勉強会の参加や、マニュアルもあり実践出来るよう教育している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定・日中想定で消防立会いのもと避難訓練を実施している。地域の方も訓練に参加し協力して頂いている。常に交流をもち協力して頂けるようお願いしている。	夜間と日中想定で年2回避難訓練を実施し、訓練には町内会の参加もあります。また事業所が市の避難場所に指定され、地域との協力体制も整えています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人生の大先輩として尊敬した言葉遣いや対応をする様に心掛けている。又、自尊心が傷つけないよう働きかけている。	尊厳を傷つけないように、トイレの誘導などの言葉がけには配慮し、個人のプライバシーの確保の為、書類の保管には気を付けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を会話の中から引き出せる様にコミュニケーション時間を多くとっています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせ、自立支援が出来るよう介助を行っている。職員は、各利用者様を理解し、本人・家族様の希望にそえるよう支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る限り自分で髪をとかしたり、鬚を剃ってもらったり、洋服を選んで頂いたりしている。又、支援が必要な方に対しては、毎日同じ洋服にならない様に介助しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、配食にて出来上がった物が届く。盛り付け、みそ汁作り、米とぎなどは、利用者様と一緒にしている。月に一度、食イベがあり、そこでは、皆さんと一緒に料理を行っている。	月に1度「食のイベント」として利用者と一緒に料理を作ったり、毎月の誕生会には握り寿司が用意されています。また近所の菜園で野菜を作り食材にしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によって、食事が管理されメニューを作成されているので栄養のバランスはとれている。水分量は、温度番を確認し、不足しない様に飲用して頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し毎食後行っている。入れ歯の方は洗浄剤を用いている。本人のできない所は介助している。また協力医療機関に歯科があるので、必要時は随時診察やアドバイスを頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はオムツ使用者はいなくトイレ誘導にて排泄されています。又、排泄チェック表を使用し個々に排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っています。	排泄チェック表を使用して排泄パターンを把握しオムツの使用を減らし、座位の保てない利用者には二人介助するなど、個々の自立支援に繋げています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量には、気を付け温度版を用いて確認している。毎朝、牛乳を飲んで頂いている。毎日、体操・運動・個別にあった運動を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせて、ゆっくり入って頂いている。大浴場があり、温泉気分が入って頂く事ができるようになっている。またリフトもあるので、車イスの方も、安全・安心して入る事も出来る。	週2回を目安に、本人の希望に添って入浴しています。大浴場やリフトも完備されているので楽しんで入浴できるよう配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決めておらず個々の眠気に応じ就寝介助を行っています。また布団も常に綺麗な物を使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を個人記録ファイルに添付し個別に薬の効用、副作用、用法、用量についていつでも確認できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族からの情報や、会話の中で楽しみごと等の情報を得て日常の中で出来るように支援しています。またレクや行事なども行い、楽しんで頂けるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば、その日の体調や天候によって戸外に散歩したり、買い物、ドライブと季節ごとに色々な所へ外出している。月に一度、バスレクを行っている。	近所の菜園に散歩を兼ねての草取りや収穫に出かけたり、月に1度のバスレクで市内のイベントを楽しんでいます。季節毎の行事でお弁当を持って外出したりなど戸外に出かけられる機会を作っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は、立て替え金を用いている。希望時は、家族の理解を得た上で、少量の金額のみ持って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話をかけたりかかって来た時は、伝えて話をして頂けるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったりして季節感や温かみを出すようにし、テーブルや椅子、照明などにも配慮し柔らかな物を用いている。こまに気温・湿度の確認を行い調整を行っている。	居間には行事の写真が貼られ、季節感が感じられるよう装飾され、またリハビリ用に滑車や平行棒が整えられ、天窓からの採光も明るく居心地よく過ごせるように工夫をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士お互いの部屋でお茶のみが出来るように配慮している。食事の席なども配慮し決めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設利用開始前に使われていた物をなるべく持参して頂いています。	居室には仏壇やタンスなど馴染みのものや思い出のものが持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるように配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は、手すりがあり、バリアフリーである。各利用者様が、安全に暮らせるような作りになっている。また個人に合わせて安全に暮らせるよう、家具などの配置も行っている。		